

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372300865
法人名	有限会社 郷
事業所名	グループホーム 郷
訪問調査日	平成 19 年 6 月 16 日
評価確定日	平成 19 年 7 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 7月2日

【評価実施概要】

事業所番号	
法人名	有限会社 郷
事業所名	グループホーム 郷
所在地 (電話番号)	熊本県宇城市西下郷236 (電話) 0964-33-6070
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3-13-12サウス清香205
訪問調査日	平成19年6月16日

【情報提供票より】(19年 5月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 11 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り 平屋 1階建て	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	103 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇城市立病院・おおもり病院・中村医院・吉永歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田舎暮らしを満喫できる自然豊かな環境に恵まれたホームで、日中6名の職員が入居者9名をケアするに十分な体制が取られ、高齢化・重度化が進む中で入居者本位の自然体の中で自由な生活が支援されている。最高年齢は103歳であり、全入居者の身体機能維持に努めると共に健康管理には詳細な記録と職員の観察力と注意力を持ってケアにあたり、“自分達が最後まで看取れたら幸せ”という職員の思いが深く、終末期生活援助を行なうに当り、家族との協力体制や医療との連携が確立している。個別ケアの実践やケアの統一に向けた取組むが随所に見受けられ、代表者の高齢者に対する思いが職員一人ひとりに浸透し、職員の高さや質の高いケアの実践である事が窺われるホームである。又、地域性を発揮し、在宅高齢者の見守りを兼ねた配食サービスや相談への対応等ホームの持つ力を十分に還元されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 高齢化・重度化が進んでおり、より安全なトイレへと改修が行なわれている。又、日々の中で対策ノートを作り、毎月末に改善できているかどうかを全職員で会議を行い、迅速な改善が図られている。前回の評価ではボランティアの受入状況の記載が無かったことから、記入するよう改善されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価だけでなく、日々を評価と位置付け対策ノートに記載し、問題の予測可能には迅速な対応がとられている。今回の自己評価は全職員での意見交換の場を持ち作成されたものであり、真摯に取り組まれている。外部評価も再認識の場と捉え、運営推進会議の中で、内容を公表し、課題を共有して改善を図る意向である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 通算3回の運営推進会議が開催され、多方面からの参加となっている。活発な意見交換が持たれ、挙げられた課題を真摯に受け止め改善策が取られている。区長提案により子ども神輿の訪問や民生委員との連携により在宅高齢者の安否確認や相談窓口として対応しており、地域に目を向けた取組みに努力が窺える。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置や、家族の訪問時の近況報告又家族の状況把握を兼ねた家庭訪問により意見や不安を積極的に引き出している。又キーパーソン以外の家族にも手紙に写真を添え送付する等家族との密接な関係構築に努力をしている。家族会もファミリーでの参加を促し、家族ぐるみの交流を図ると共に、家族からの意見には迅速に検討し、改善を図っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 老人会主催の廃品回収や苦役への参加、又季節毎の地域の行事等地域活動へ積極的に参加している。月2回着物リメイク教室を開催し、入居者・家族・地域の方々の交流の機会を設けている。近隣住民と回覧板の受渡しや垣根越しの交流が図られている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然体の中で安全な生活の確保と自由な生活を支えていきたいという思いや地域を生活圏として根ざしたいと「自由・自立・安全・社会的支援・地域との交流」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と制度を職員一人ひとりがセルフチェック(理念を具現化したもの)を行い、個々の状況を評価することで質の向上に取り組んでいる。朝礼やカンファレンス時等理念に結びつけた話し合いを行うことで共有化を図り、日々のケアの規範とし、入居者を尊重したケアの実践であることが職員からの聞き取りで確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域性が高いところであり、苦役・廃品回収(老人会主催)等への参加や回覧板の受渡し、又季節毎の行事等地域活動へ積極的に参加している。また、運営推進会議を活用した取組みの一環として、子供会(こども神輿)の訪問があり、楽しみごとへも繋がっている。日常的には近隣と垣根ごしの交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎日が評価(人が換われればその都度ケア対応が変わるとの思い)と、ホームを訪問される方一人ひとりも外部者と捉え常に評価してもらっている。日々の改善点を対策ノートに記録し、月末の会議で検討し、迅速な対応を心がけている。管理者は外部評価を再認識の機会と捉え、職員へのフィードバックの機会にしていきたいと真摯に受止めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は通算3回が開催されている。会議を飽きるものにしたくないとの思いから、スタッフ紹介と入居者の状況報告を行い、意見交換へと繋げ、取り上げられた課題について真摯に取り組む、改善策が取られている。今後は更に会議の計画を立て、外部評価の内容を公表し外部の人々と課題の共有化を図り取り組んでいく意向である。		

グループホーム 郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所へ出向いた折に、担当者と状況交換を行い、情報を得る機会としている。又包括支援センターで行なわれる研修へ参加し質の向上に取り組んでいる。</p>	○	<p>更に認知症の理解を深めるために、ホームの持つ力を還元していきたいと意欲的であり、今後キャラバンメイトとしての活躍の場を市担当者と話し合い、連携した取組みと企画・参画されることを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>料金持参を足がかりに全家族月2回以上の訪問があり訪問時に近況報告をしたり、家族の状況把握も兼ね家庭訪問をし報告している。又、キーパーソン以外の家族にも手紙に写真を添え送付する等家族との密接な関係作りに努力されている。年4回郷新聞を発行し、日常の生活ぶりを発信している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はファミリーでの参加となっており、家族ぐるみでの交流が図られ、家族からの意見は迅速に検討し改善が図られている。又、意見箱を玄関脇に設置し、訪問時には職員が何でも家族の相談を受けられるよう雰囲気作りに心がけている。家族もまた職員と気軽に相談や要望等が出来ることがアンケートより窺えた。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>この1年職員の異動等はないが、玄関に職員の顔写真を掲示し、顔を覚えてもらうことや利用者の信頼を得られるようなコミュニケーションをとり、不安感への配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者が日常の中で指導したり、研修や勉強会にも管理者だけでなく職員も出席している。職員のレベル・力量に応じ目標を設定して取組んでいる。勉強会の状況は日誌の中に記載されており、全員での取組みが確認できた。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ブロック会議に参加し、他ホームとの交流促進や情報交換により質の向上に努めている。又、他のグループホームで研修も行い、取組み状況の認識や職員のレベルアップとするなど連携した取組みが行なわれ、管理者は職員のケアへの慣れ対策の一環としている。職員の聞き取りでも「他のグループホームも見たい」と意欲的な意見が聞かれ、継続した取組みに期待したい。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは職員や他の入居者の顔を覚えてもらうため、家族と共に来所してもらったり、職員が家庭への訪問を重ね、不安を取り除き、本人の反応及び家族の理解もとの入居となっている。又在宅でのケアマネージャーとの情報交換を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で昔の事を話したり、傾聴することで生活歴を引き出し、得意分野や趣味等の支援が行なわれている。出来る事には参加する機会・場をさりげなく作り、調査訪問時もピーナッツの皮むきを仲良くされており、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や本人の長年の暮らし・人生を尊重し、職員が入居者の行動の理解に努め、入居者同士の会話からの意向の聞き取りや職員の言葉での誘導により、一人ひとりに応じた支援となるよう努めている。又、利用者のいつもと違う事(しぐさ・行動・言動)を報告し、情報の共有化を基本としたケアを旨としている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から得た情報を元にし、家族の来訪時には常に方向性の話し合いと意向を確認しながら、職員との意見交換により一人ひとりの“らしさ”を引き出し、入居者本位の介護計画を立案している。職員は日々の記録に介護計画も評価として残し、職員の意見や提案が介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を毎日評価として記録することで、入居者個々の状態や心身の変化を見逃さず、必要に応じた臨機応変な見直しが行なわれている。		

グループホーム 郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議の参加者である民生委員からの報告や地域住民からの情報の共有化を図り、在宅生活高齢者の支援として、ホームより配食(朝食)を行い、安否確認や不安への相談窓口となっている。同法人のディサービスセンターを使用し、家族と職員の親睦会も開催し、家族との関係構築にも最善が尽くされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を確認し、基本的にはかかりつけ医が中心となっているが、専門的な治療が必要な場合には家族の了解を得て適切な診療科目を選択している。協力医療機関との関係も構築しており、24時間緊急往診も確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員の“自分達が最後を看取れたら幸せ”という思いが深く、本人の意思や家族の意向を踏まえ、ターミナルケアが行なわれている。ホームにおける医療の考え方や看取りケアの考え方を共有し、終末期における実践同意書とターミナルケア依頼・受諾書を作成する等方針が確立している。又、終末期生活支援を行なうに当たり、家族・主治医・介護専門員・看護師・担当看護職員の列席のもと本人の意向や現状報告・今後の経過又グループホームでの対応等会議を行なっている。往診協力医との連携体制が確立し、職員体制が確立しており、対応が可能となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目線での声かけや難聴者への声のトーンやトイレ介助方法、手引きの際の声かけの優しさ等人生の大先輩としての尊敬の念や尊厳に配慮した対応である。又個人情報には十分な配慮で、新聞の写真掲載等家族の確認が取られている。接遇マニュアルや外部者からの抜き打ち評価等も取り入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは廊下の壁に掲示されているものの、一人ひとりのペースで自由な生活を支援している。特に起床時間や朝食時間等も自由であり、昼食時も、嚥下状態を確認しながらゆっくり介助されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望の献立や季節の食材(自家栽培)を中心に1日30品目を取り入れた食事を提供している。調理へは入居者のできる事(皮むき等)を楽しそうに職員と一緒に行なわれている。職員は弁当持参となっており、検食となっている。1・15日がお寿司の日・バイキング等も取り入れ楽しむ食や献立表からは食へのこだわりが窺われる。日々の改善点を対策ノートに記録し、月末の会議で検討し、迅速な対応を心がけている。	○	高齢化・重度化が進んでおり、職員は介助が必要な入居者のケアが中心の食事となることは致し方ないかもしれない。又職員の休憩時間をしっかりと取れていることは大いに評価できるが、職員も一緒にテーブルに付くことが出来ればもっと楽しい食事となることが期待できる。再考いただき、更に楽しい食事になることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホー内で育てたハーブを利用し、ゆっくりと入ってもらおうと心がけている。スベリ止めマット等により、安全へも配慮し、特に月に1回は自分ひとりでゆっくり自由な入浴を楽しんでもらっている。夏場はナイトケアとしてシャワー浴も取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、入居者のできることや趣味・特技を全職員が理解し、一人ひとりに役割を持ってもらい、出番の機会を作っている。洗濯物たたみや針仕事等入居者同士も助け合いながらの生活が送られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物への同行や入居者一人ひとりの観察を観察し、個々の希望や職員の声かけで散歩等が行なわれている。又、近くの公園へのピクニックや全員での遠出等季節に応じて計画を立て実施している。(花見・アジサイ見学・つわり等)		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に開錠されている。施錠の弊害をよく理解し、職員が常に見守りし、必要に応じて傾聴するなどの対応がとられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防団より消火器の点検が行なわれたり、火災訓練は地域との連携も出来ており、近隣の住民の協力が得られている。又、問題となった非常口も消防署に場所を見てもらい運営推進会議の中で場所を決定しており、工事終了後消防団長や区長に確認してもらった段取りである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30種類の食材の提供と口に入るものは自然な食材を提供する事をモットーとした支援となっている。水分チェック表や食事量のチェック、バイタルチェック(野線化)等を記入し、健康管理に活かしている。個々の嚥下状態や既往症等に補助食を提供したりと細やかな支援となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境に位置し、風の音・鳥の音が聞こえ、道路からのアプローチや玄関周りに季節の花が植えられ、室内にいて緑と花を眺められる心地良いホームである。玄関前の丸テーブル周りでは入居者が食材の皮むき等が行なわれている。季節に応じ火鉢(すすの出ない木炭を使用)やうちわ等により、昔を偲ぶ工夫もある。食堂のテーブルは入居者と一緒にレイアウトをやり直し、入居者・職員が一体感を持って生活できる環境作りである。	○	装飾品や置物等最小限に抑え、整理されるとより季節感も増すと思われる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が開け放たれ、心地良い風が通り抜ける居室は、洋間と畳敷きの和室となっており、使い慣れた家具や位牌等が持ち込まれ、清潔に保たれている。各居室に温度計を設置し適正な温度管理がされているとともにカーテンを色違いにすることにより場所違いの防止にし、居心地よい居室作りが随所に見られる。		